

響け和太鼓サウンド 創ろう文化のまち

滋賀・甲賀町 和太鼓サウンド夢の森実行委員会
財団法人甲賀創健文化振興事業団





夏

休み最後の土曜日、大人でもバテそうなお炎天下でのリハーサル、子どもたちは頑張った。本番直前まで会場の芝生で最後まで練習をする地元甲賀町チーム「甲賀忍玉太鼓団」。西に傾いた陽の光が子どもたちの顔の汗を輝かせていた。本番での感動に向けて。

今回出場の子ども太鼓三チーム（第一部）、大人太鼓五チーム（第二部）にゲストの和太鼓スーパーユニット「侍（さぶらひ）」（第三部）の太鼓の音色やばちさばきに観客は大いに酔いしれた。

前日夕方、農村環境改善センターでは子ども百人太鼓の合同練習が行なわれた。今回の百人太鼓の演奏曲「ふじっ子囃子」の作曲者でもあるゲストの「侍」の藤慶哉先生による指導。めったに受けられない指導に子どもたちのみならず、会場全体に緊張の糸が張りつめた。「それ」の掛け声とともに太鼓が打ち鳴らされると、文字通り会場が揺れた。空気が震えた。体に太鼓の勇ましい音が突き刺さるようだ。肌がビリビリと震えた。「だんだん早くなってきたよ、気をつけてッ」、「よーオッ」、バチン。「よーし、今のはよかったア」と藤先生の声が響いた。

練習の後は交流会。「太鼓やってどれくらいなの?」と聞いてみると「うーん、一年か二年かな」とある女の子。するとすかさず隣の子



が「なに言ってるの、まだ三か月じゃない」と笑う。短い期間にずいぶん上達するものだ。想像以上にハードな練習を重ねてきたに違いない。その晩の宿舎は、まるで修学旅行の晩のように遅くまで布団の中で盛り上がっていたようだ。

いよいよ本番当日、会場と同時に大勢の観客が場内に流れ込んだ。中にはバスを仕立てて駆け付けたグループもあった。そして夕方五時の開演とともに、二千人の観客は太鼓の感動に包まれた。

子ども百人太鼓は今年が初めての企画。各地から集まった子どもたちだけに合同練習は六回だけで本番に望む。前日の合同練習を終えて交流会の席でも机を太鼓に見立ててトコトコトントンと練習を続けていた子どもたちの姿が思い出された。教育長は子どもたちに「太鼓は楽しい時、お祝いの際に心を和ませ、喜ばせる日本の伝統文化。そういうものを地域で脈々と息づかせていくことが大切です。みなさんもそういうふうで育て、今日のことを夏休み最後の大きな思い出にしてほしい」とエールを送っていた。

今年参加したのは地元甲賀町の「甲賀忍玉太鼓団」「蒲生野太鼓わらべ組」「青山子供太鼓」の三チーム。

トップバッターの甲賀忍玉太鼓団の演奏が終



わると会場からは感極まった「ありがとー」の掛け声と大きな拍手。結成二年目の初々しいチームだが、太鼓はただ音を鳴らすだけの楽器ではなく観衆に見てもらおうことで感動が増幅していくということがはっきりと伝わってきた。今年のイベントを前に実行委員会にはこんな手紙も届いていた。「太鼓は耳で聞くものではなく体全体で感じるもの、ということをお教わった。また今年も楽しませてもらいます」

第二部が大人の太鼓チームで第三部では「侍」による演奏が続く。そして何といても圧巻は、大人による百人太鼓だ。会場からの手拍子の出演者全員が舞台狭しと太鼓を乱れ打ち、感動のフィナーレを迎えた。

事務局の橋本恒典さんは「去年は過去最高の千五百人が見に来てくれました。それが今年は開演前にもう会場は満杯、二千人を超えていました。来年は町村合併を控えています、このイベントはずっと続けていきたい」と話す。

今年で六回目を迎えた和太鼓サウンド夢の森。出演者も観客も町内外はもとより県外からも多数駆け付けるイベント、甲賀の夏の風物詩となった。

■連絡先

滋賀県甲賀郡甲賀町相模124-7
(財)甲賀創健文化振興事業団内
電話 0747-88-2190